

# 大すきなかたつむり

広島県立尾道特別支援学校  
小学部第2学年 武田 琉夢

ぼくの大すきながたつむり  
 たけ田りむ  
 ぼくは校外学し<sup>サ</sup>うのとき、  
 山の近くでかたつむりなこゝろ見  
 つけました。  
 かたつむりをつかまえようとし  
 たとき、はじめは、  
 「人生はつのはいけんだあ。これ  
 いから、大上先生とってくださ  
 い。」  
 と言っ、こゝろなかなかとあま  
 せん。で  
 した。すると、大上先生が  
 「かたつむりはこわくないよ。こ  
 うやっ、こゝろからきつまんでとっ  
 たらいいよ。」

と、教えてくれました。ゆう気を  
出したら、つかまえることができ  
ました。とてもうれしかったです。  
学校に帰った後、本をかたつむ  
りのかい方をしらべ、お家をつ  
くってあげました。おちは木の  
えだを入れてあげました。えさは  
たまごのからやさいです。にん  
じんを食べたら、オレンジ色のう  
んちをし、とてもびっくりにま  
した。  
それから、かたつむりをかんと  
つしました。かたつむりの体はぬ  
るぬるとして、います。手の上  
にのせると、ゆっくりすすんで、  
くす

ぐったがったです。かたつむりが  
通ったあとが、シャボン玉みたい  
にピカピカしていました。しよっ  
角をさわるとひっさんだのが、い  
ちはんおもしろかったです。べつ  
の日にがたつむりを見たら、から  
の入り口に白いまくができていて  
びっくりにしました。体があかくな  
いようににするためだそうです。  
せあをしたいさわたりして、  
かたつむりはかあいいなと思いま  
した。ぼくは、かたつむりが大す  
きになりました。

## ＜指導者の言葉＞

本校聴覚障害部門に通う幼児児童生徒は、聴覚障害の故に、耳から自然とことばが入ってきにくいいため、日頃から意図的かつ丁寧なことばの指導を心掛けています。聴覚障害のある児童に豊かなことばを身に付けさせるために、特に大切なのは、「経験にことばを乗せる」ということだと考えています。児童の体験を通して、共感的なやりとりをする中で、ことばを教えていくことを中心に取り組んでいます。

この作文を作成する前に、生活科の授業をはじめ学校生活の中で、実際に、児童がカタツムリを捕まえたり触ったりよく見たりする機会を多く設けました。その体験をする際に、「怖かったけど、捕まえられたね!」「触った感じはどんな感じがする?」「ぬるぬるするね。」といった言葉掛けややり取りを、児童と積み重ねてきました。体験を通して、新しい発見をしたことで、児童の「表現したい」「伝えたい」という気持ちが膨らみ、観察シートや絵日記に記録することで、経験を文章化してきました。

実際に作文を書いていく過程では、まず、児童が、観察記録や写真などを見たり教師と対話をしたりしながら、イメージマップに表しました。次に、そこから書きたいことを選び、はじめ・中・おわりの組立メモに段落構成を記入した後、詳しく内容を考えていきました。このように、経験や思考を視覚化、言語化しながら、順を追って整理することができるようにしています。

作文を書いた後も、児童は、カタツムリにかわいい名前を付けたり、図画工作の授業でカタツムリの作品を作ったりして、カタツムリとのかかわりから、活動を広げてきました。また、ナメクジを発見して、「殻のないカタツムリだ!」と驚き、「殻を落としてしまったのかな。」「赤ちゃんだから殻がないのかな。」などと想像を膨らませて、自ら図書室に調べに行ったり、他の人に質問したりと、「知りたい」という気持ちが高まりました。さらに、調べたことを友達に伝えるなど、カタツムリとの出会いから、児童の学習や知識、ことばが広がり、周りの人たちとのかかわりも広がりました。このように、活動や他者とのかかわりを広げていくことも、生きたことばを育む上で大事に取り組んでいます。